

# 現行計画の骨子

## 計画の基本理念

障がいのある人もない人も、私もあなたも主人公になれるまちをめざして、  
住みなれた地域で自分らしく輝いて暮らせるまち 芦屋

## 計画の基本目標

地域で安心して生活できる基盤づくり

共に学び共に地域で活動できる体制づくり

適性に応じて能力を発揮し、いきいきと働くことができる環境づくり

権利が尊重され安心して暮らせる環境づくり

## 各施策

相談支援体制の充実

障がい福祉サービスの充実

障がいの原因となる疾病予防と早期発見・早期対応

医療関連施策の充実

障がいに応じた情報提供の充実

広報啓発活動の充実

一貫した教育支援体制の構築

福祉教育の推進

交流活動の充実

地域福祉活動の促進

就労支援の充実

多様な社会参加の場・生きがいの場の充実

権利擁護の推進

生活環境の整備

防災・防犯対策の充実

・障がい者施策で期待・重要視することとして、「何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする」という意見が多くあった。  
・サービス等利用計画の作成など、相談支援の利用満足度は3年前と比較して向上している（H28：71%、R2：75%）。  
・地域で生活するために必要なこととして、「安心して相談できる相談員や窓口があること」と回答している。

・サービスの内容や事業所の対応などの満足度は3年前と比較して向上している。  
・移動支援のサービス拡充（使い方）を期待している。  
・地域で安心して生活するためのグループホームを積極的に使ってほしい。

・軽度発達障がいやグレーゾーンの子どもへの支援を充実させて欲しいという意見が多くあった。  
・自分の健康や体力に自信がないことを不安に感じている。

・障がい福祉に関する情報等については、多くの方がスマートフォン・パソコンなどインターネットを通じて入手している（特にスマートフォンからの割合が高くなっている）。  
・障がい福祉サービスを利用していない理由として「サービスがあることを知らなかった」、「サービスの利用方法が分からない」という意見が多くあった。  
・芦屋市障がい福祉ポータルサイト「あしやねっと♪」は認知度が低いため向上させる必要がある。  
・障がい者施策で期待・重要視することとして、「福祉に関する情報をもっと多く、わかりやすくする」の意見が多くあった。

・個々の子どもに応じた支援、指導ができるよう小学校の特別支援学級の教員を増やしてほしいという意見が多くあった。  
・保育や教育について今後特に必要と思うものとして、教員や児童、保護者に対する障がい理解の意見が多くあった。

・障がいのある人に対する地域の理解について、「わからない」を除くと4割弱が「進んでいない」「あまり進んでいない」と回答している。  
・保育や教育について今後特に必要なものとして、7割強の方が「教員などの指導力の向上や障がいへの理解」と回答している。

・サービス事業所通所後の夕方以降や休日の主な過ごし方として、カフェや一緒に過ごす友人や知人などの仲間を作れる場所で過ごすことを希望している。  
・地域活動に参加するためには、「一緒に活動してくれる人がいること」、「地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること」という意見が多くあった。

・外出する際に困ったり心配になったりすることとして、「困った時にどうすればいいのかわからないので心配」という意見が多くあった。

・仕事上で、「職場の人間関係」、「職場での意思疎通などのコミュニケーション」に困りごとを感じている。  
・障がいのある人の就労を推進していくために必要なこととして、「職場に障がいのある人への理解があること」、「勤務日数や時間に配慮があること」、「障がいのある人に配慮した設備などが整っていること」という意見が多くあった。  
・障がい者施策で期待・重要視することとして、「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」という意見が多くあった。

・地域の行事や活動へは、約8割の障がいのある人が「参加しない」、「どちらかと言えば参加しない」を回答している。

・障がいがあることで差別・偏見を受けた経験については、約3割の人が経験があると回答している（割合としては3年前よりも低くなっている）。  
・差別の内容としては、「からかわれる」、「笑われる」、「仲間外れ」、「変な目で見られる」など、障がい理解の低さが原因のものが多い。

・将来的に生活する住まい、施設があるかどうか不安に感じている人が多い（知的障がいのある人もしくはその家族は約半数が不安に感じている）。

・災害時などの緊急時に1人で避難できるかどうか質問したところ、「できない」と回答した人が約半数いる。  
・避難の際に手助けしてくれる人については、「家族・親族」が86%、「近所の人」は8%となっている。  
・災害時に不安なこととして、「避難場所の設備や生活環境」、「避難場所での医療ケア（投薬・治療）」、「避難場所と一緒に過ごす人の障がい理解」という意見が多くあった。